予　算　決　算　委　員　会　会　議　録

１．日　　時　平成３１年３月６日（水曜日）

　　午前９時３０分～午前１１時３６分

２．場　　所　委員会室（議場）

３．出席委員　猶　野　智　和　委員長　　下　井　克　己　副委員長

　　竹　岡　昌　治　委　　員　　徳　並　伍　朗　委　　員

　　秋　山　哲　朗　委　　員　　安　冨　法　明　委　　員

　　岩　本　明　央　委　　員　　山　中　佳　子　委　　員

　　三　好　睦　子　委　　員　　髙　木　法　生　委　　員

　　岡　山　　隆　委　　員　　秋　枝　秀　稔　委　　員

　　戎　屋　昭　彦　委　　員　　杉　山　武　志　委　　員

　　末　永　義　美　委　　員

４．欠席委員　なし

５．委員外出席議員

　　荒　山　光　広　議　　長

６．出席した事務局職員

　　綿　谷　敦　朗　議会事務局長　　大　塚　　享　議会事務局長補佐

　　篠　田　真　理　議会事務局主任

７．説明のため出席した者の職氏名

　　西　岡　　晃　市　　長　　波佐間　　敏　副　市　長

　　石　田　淳　司　市長公室長　　田　辺　　剛　総務部長

　　藤　澤　和　昭　総合政策部長　　大　野　義　昭　市民福祉部長

　　西　田　良　平　観光商工部長　　志　賀　雅　彦　建設農林部長

　　佐々木　昭　治　総務課長　　竹　内　正　夫　財政課長

　　池　田　正　義　税務課長　　安　永　一　男　農業委員会事務局長

　　岡　崎　堅　次　教　育　長　　金　子　　彰　教育委員会事務局長

　　細　田　清　治　会計管理者　　東　城　泰　典　美東総合支所長

　　鮎　川　弘　子　秋芳総合支所長　　松　永　　潤　消　防　長

８．会議の次第は次のとおりである。

午前９時３０分開会

○委員長（猶野智和君）　おはようございます。きのうに引き続き、予算決算委員会を開会いたします。

それでは、議案第１０号平成３１年度美祢市一般会計予算を議題といたします。

西岡市長が出席されましたので、これから総括質疑を行います。本案に対する質疑はございませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君）　お尋ねいたします。市長は、所信表明で改めて五つの政策を掲げておられます。

３番目になりますが、教育環境の充実の施策の一部についてお尋ねします。

子どもの医療費が中学校卒業まで無料化ということは、県下でもリード的な施策だと思います。せっかくの施策も所得制限があっては、恩恵は受けられない世帯があるということは残念です。

保育料軽減施策では第３子から保育料は無料になっております。これには所得制限がありません。子どもの医療費についても所得制限をなくするお考えはありませんでしょうか。せっかくの中学校卒業までの医療費無料の制限が使えない世帯があるということは、絵に描いた餅になってはいけないと思うのですが、お考えをお尋ねいたします。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　三好委員の御質問にお答えをしたいと思います。

三好委員お尋ねのとおり、昨年の８月から中学生の医療費を――所得制限がありますけれども、無料化をさせていただいているところでございます。

現在、所得制限を外したときに、どれだけの費用がかかるか、そして、どういった形のものができるかっていうことを、検討は今しております。昨年の８月から実施しておりますので、それの事業効果を精査しながら、今後に向けて検討してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　三好委員。

○委員（三好睦子君）　前後しますが、２番目の住みたくなる、住み続けたいまちの創造に関してですが、敬老祝金支給事業についてお尋ねします。

この事業は、２番目に該当するのかどうかわかりませんが、勝手に解釈してお尋

ねします。

祝金事業の県下の様子を見ますと、美祢市は断トツ支給額が多いのです。いただくのは多いにこしたことはありませんが、見直しの時期ではないかと思われます。

高齢者の方で、交通対策、買い物支援など、日ごろ住みやすくしていただいたほうがよいという意見もいただいております。

県下の状況は、全てではありませんが、８８歳と１００歳にしている市があります。他市と同じようにというのではありません。８０歳――現行の８０歳、８８歳、９０歳、９９歳、１００歳と、今までの支給年齢はそのままにして、金額を１万円ずつにするっていうのはどうでしょうか。

夢や楽しみも必要です。温泉に行ったり、おいしいものを食べたり、祝い金で、少しばかりぜいたくをしてもいいのではないかと思います。削減になった予算は、高齢者の福祉に使っていただきたいのです。

一例ですが、買い物支援、健康になるためのカルチャースクール、そのための移動手段の確保など、高齢者が生き生きと楽しく暮らせる、住み続けたいまちづくりを考えておりますが、市長の考えをお尋ねします。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　三好委員の御質問にお答えをしたいと思います。

敬老祝金につきましては、一度、見直しの議案を提出をさせていただきましたけれども、制度内容をもう少し見直すというか、もう少し考えたらどうかということで、議会のほうから問題提起をいただいております。

そのことについて、今検討して、敬老祝金については、もう少し時間をかけて、見直すべきところを見直す。そして、今言われるような、生活支援等に回せる部分があれば回していきたいというような思いで、今、制度設計を原課のほうで行うように指示をしているところでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　三好委員。

○委員（三好睦子君）　４番目の地域経済の活性化についてお尋ねします。

地域経済を活性化するには多くの施策が考えられますが、今回は消費税１０％が実施されたとき、消費が落ち込み、経済が疲弊することが考えられます。

その対応として、昨日の回答では、プレミアム商品券の発行も考えているという

ことを伺いました。

このプレミアム商品券、これは不公平ではないかと思うのです。少ない収入でやりくりする中でプレミアム商品券は買えません。全国的に見ましても不評だったという記事を見ました。

まずは、市長が市長会等で消費税の１０％の増税の中止するように求めていただきたいのですが、市長の考えをお尋ねします。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　三好委員の御質問にお答えをしたいと思いますけれども、消費税１０％の件につきましては、市長会等で、国のほうに要望したらどうかということでございますけれども、これにつきましては、市長会のほうでは、この１０月から保育料の無料化を――３歳から６歳まで無料化ということを決定をしていただいて、市のほうの手出しもございますけれども、そういった各種事業に充てるということで、一応の了解を市長会のほうではしているというところでございます。

また、プレミアム商品券等についての施策については、国の施策とも関連しておりますので、私がここで国の施策をどうこう答弁することはありませんけれども、市といたしましても、地域経済の活性化についてはしっかり考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　三好委員。

○委員（三好睦子君）　１番目の、住民が主役のまちづくりについてお尋ねします。

住民が主役とは、市民の意見をよく聞き、施策に反映したまちづくりかと思います。

施策の中で、世界ジオパークを目指すとあります。予算の中ですが――昨日の中ですが、施策の中に、世界ジオパークを目指すとあります。市民の皆さんは世界ジオパークになることを望んでおられるのでしょうか。日本ジオパークでいいのではないか。もっと市民のために、医療、福祉、教育の施策を充実してほしいと願うのも市民の声ではないかと思います。そういった市民の声も伺っております。声に応えるのも住民が主役のまちづくりではないかと思います。市長の考えをお尋ねいたします。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　三好委員の御質問にお答えをしたいと思います。

三好委員言われるとおり、いろいろな御意見ございます。世界ジオパークを目指すべきなのかどうなのかというようなことも、私の耳にも入ってきております。

しかしながら、世界ジオパークを、昨年度目指すということでキックオフをさせていただいております。

ここは、ぜひとも市民の皆様に御理解いただきながら、全市的に世界ジオパークを目指して、そしてその先に、どういった施策ができるかということを市民の皆様と一緒に考えて、まちづくりを進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　三好委員。

○委員（三好睦子君）　ありがとうございました。

それで、住民が主役のまちづくり、これが一番大事なことと思います。住民のための医療、福祉、教育の施策を十分に充実させていただき、市民が住みやすいまちづくりになるかと思いますので、よろしくお願いいたします。質問を終わります。

○委員長（猶野智和君）　ほかにございますか。安冨委員。

○委員（安冨法明君）　総括質疑ということで、市長が出席をされておりますので、二、三点についてお伺いをいたします。

まず最初に、今回市長が再任をされたと言いますか、再選をされたと言いますか、そういうことで選挙もございまして、骨格予算っていうことに一応はなっております。総額が１４９億６，０００万円ですよね。

で、当然、一番早い臨時会等で、５月ぐらいになるんでしょうが、補正予算で、あと投資的な事業についての肉づけがされるのが常識的なことだろうというふうに思うわけですが。

その上でお聞きをするわけですが、大体今までの説明で、通年の予算から――昨年って言ったほうがいいかもしれませんが、大体１０％弱、９．６％ぐらい減、金額にして１６億弱――１５億８，０００万ぐらいですか、少ない予算編成になっているということなんですが、市長の頭の中に、どういうふうな肉づけといいますか、投資的な事業が、あと予定をされているかっていうことをお聞きをしたいわけなんですが。

これぐらい、今申し上げたぐらいの昨年並みの予算になるのか、漠然とではある

かもしれませんけども、西岡市長自身とすれば、既に昨年の後半ぐらいからですね、後半っていうとちょっと無理かもしれませんが、９月ごろからは、少なくとも、次年度に対する投資的な事業等の考えが頭の中にあって、新年度予算というものを考えておられたというふうに私は思うわけです。

まず最初に、今申し上げました、最終的にどれぐらいの予算額になるのかっていうことが一つ。

ついでに――ついでっていう言い方はよくないかもしれませんが、今、説明を受けた中では、予算の概要書の１６ページを見ておりますが、基金の残高を見ております。今回の新年度予算で、財政調整基金が４億４，０００万円、それから、ゆたかなまちづくり基金、これも第二の財政調整基金的な要素を持っておるというふうに思いますが、既に５億３，０００万円の基金の取り崩しがあるわけですよね。

そうしますと、今の骨格予算で、今申し上げた金額になって、さらに投資的な事業をするということになると、この財調――積立金がさらに減額っていいますか、取り崩すように、恐らくなってくるんじゃないかというふうなことを思うわけです。

そうしたときに残高を考えますと、今の状況で、今申し上げた経常経費ですかね、骨格予算で経常経費を組んだよと、基本的にはね。

そういう中で、既に５億３，０００万円の基金が取り崩されている。あと、投資的な事業で基金を取り崩されるんであれば、割と理解はしやすいかなというふうに私は思っているんですが。

既に投資的な事業は置いといて、今から肉づけするよという以前、その前段で、既にこれだけの基金が、取り崩されてるっていう状況がいかがなものかなっていうふうに、ちょっと大丈夫かなっていうふうなことを思っております。

この２点について、市長のお考えをお聞きしたいというふに思います。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　安冨委員の御質問にお答えをしたいと思います。

まずは、予算規模のお話だろうというふうに思っておりますけれども、現在、肉づけの予算査定を行っておるところでございます。

そういった段階でございますので、はっきりとした今、数字をお示しはできませんけれども、昨年は、減債基金１０億の取り崩しをさせていただいて、予算規模が１６５億という形になっておりますので、その減債基金の取り崩しがない、

１５５億前後になろうかなというような、今のところでは肉づけの予算の査定状況でございますが、ここはまだ、はっきりとはしておりませんので、しっかりこれから精査していきたいというふうに思っております。

また、財政調整基金の件でございますけれども、確かに、今現在でも４億４，０００万円の取り崩しをしておるということでございます。

しかしながら、昨年度の予算委員会でも議論になりましたけれども、予算規模の約１０％ぐらいの財政調整基金を保有するのが妥当ではなかろうかというところでございますし、それ以上にあるのはこしたことございませんけれども、その辺をしっかり見きわめながら、取り崩しをしながら、また年度末には繰り入れをできるような、いろいろな事業展開をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　安冨委員。

○委員（安冨法明君）　そうですね、今、言われる――予算規模と言われましたけども、これ実際には標準財政規模だろうと。１００億規模ですよね、美祢の標準財政規模って。ということは１０億なんですよ。市長の頭の中にある財調の残高っていうか、私もそれが心配なんです。

で、その根拠を、以前にも申し上げたかもしれませんけれども、じゃあ何で、１０億程度の財調の残高、財調基金の規模でいいかっていう根拠を示されると、聞いてるほうが、なるほどなとか、いや、それおかしいんじゃないのかっていうふうな議論ができる。

申しわけない言い方かもしれませんけれども、その根拠になるところを、例えば本市の人口の動態ですとか、産業経済の状況ですとか、あるいは職員の構成とか、考慮しなければいけないものがたくさんあるはずなんです。

だから、そういうことを総括された上で、１０％って言われるんであれば、それは私は議論ができるというふうに思うんですよね。それが私は足りないというふうに思っておりますが、市長そういうふうに思われませんか。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　安冨委員の御質問にお答えをしたいと思いますけれども、確かに、数字的な根拠を示せというところでございますが、今言われるように財政標準規模と職員の数、また今の地域経済の状況、それから人口減少の状況等々を勘案

しながら、そういったことの根拠を示せということでございます。

今、手元にはございませんけれども、それをやはり、しっかりつくり込まないといけないということは私も認識しておりますし、これから大型の投資事業を控えておりますので、その辺の議論をしっかりまたさせていただきたいし、お示しをできるようにしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　安冨委員。

○委員（安冨法明君）　ぜひ期待をしておりますから、そういうふうな説得力のあるお話をしていただきたいというふうに思います。

今、三好委員の質疑の中で、市長が答弁されたことに、ちょっと同じようなことを申し上げますが、例えば、世界ジオパークを目指します。世間には、「そんなこと、金かかるのはやめたほうがいいよ」っていうふうな意見もあるよって、市長言われましたよね。私、その辺がひっかかるんですよね。けちをつけるわけじゃないんですよ。同じことなんですよ。なぜ、世界ジオパークを目指すのかっていうことの根拠を示してほしいんですよね。

要するに、予測以上に進む人口減少社会を迎えてる美祢市にとって、産業振興、これが一番の課題なわけじゃないですか。そのためには、よそにないものを探すのもいいけれども、美祢市にとりあえず――とりあえずっていうのもおかしいですが――ある、観光地としての今までの実績があるわけじゃないですか。その上に世界ジオパークを目指すことで、この前もいろいろ議論しましたが、インバウンドの醸成っていいますか、そういうふうな、日本の人口が減るんだから、これから外国からもお客さんにいっぱい来てもらいましょうねっていうふうなことを目的に、要するに、市長が公約の中に掲げておられます、最後に取ってつけたようにかもしれませんけども、財政の健全化っていうのが入ってるんですよ。幾ら市民福祉の向上をうたっても、財源がなければどうしようもないわけじゃないですか。

産業振興っていうのは、その部分にかかわるわけでしょう。だからこそ、世界ジオパークを目指すんですよっていうふうに言ってもらわないと、やはり市民の皆さん、私は理解はされないだろうというふうに思います。

ただ金かかるだけじゃないか、こんな話。ならやめましょうってね、そういう話になってもらっちゃ、今までした苦労も何もないわけですから、私は、その辺を市

長としてしっかり、市民の方にお示しをされなきゃいけないというふうに思っておりますが、市長の見解はいかがでしょうか。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　安冨委員の御質問でございますけれども、確かに、世界ジオパークを目指すために多額のお金を使って、どういった効果があるのか、やめたほうがいいんじゃないかというような御意見、数多くの市民の方から私の耳にも届いておりますし、御意見もいただいておるところでございます。

そういった意味で、世界ジオパークを目指す意義として、やはり観光振興だけではなくて、やはり教育や、そしてこの自然をどう守って継承していくかということにも、この世界ジオパークを目指す意義があろうかというふうに思っております。

ただ産業振興、観光振興のみならず、そういった教育や環境保全、そして、この地域を後世にどう残していくかということを、市民全員の方で考えていく、そのきっかけづくりとなるのが、このジオパーク活動だろうというふうに思っておりますので、市民の皆様には、御理解をいただきたいというふうに思っております。

○委員長（猶野智和君）　安冨委員。

○委員（安冨法明君）　そうですね、いつも同じようなことを、結果的には言ってるのかもしれませんけれども、要は、説得力っていうか、要するに、もし、市民の方に正しい理解をしていただける、いただくためには、やはり言わんとする施策の根拠っていいますかね、きちんとした考え方の上に、こういうふうな根拠に基づいて、これをやるんですよっていうふうな説明の仕方、説得の仕方っていうのを、ぜひお考えをいただけたらというふうに思います。

もう１点だけお聞きをします。

予算書の１１３ページなんですが、予算書ですね。

これは、市長がおられないときに質疑の中でも申し上げました。総務費の中に退職手当っていうことで、計上が３００万ぐらいあったんですが、このときの説明で、市長のところに報告が上がってるかもしれませんが、定年退職以外に自己都合で６名の方が退職になりますと、こういう話なんですよね。

同じようなことを申し上げますが、美祢市でですね、美祢市の規模で６名の方がお辞めになる――自己都合でお辞めになるっていうのは、ちょっと多いんじゃないですかっていうふうなことを申し上げました。どのような年代の方がおられますか

っていうこともお聞きをしたわけですが、若い人を中心に、４０代の方も１人おられますよと、こういうふうな答弁でした。

市長にお聞きをしたいというか、お考えをお聞きをしたいことは、自治体としての美祢市、ひょっとして勤めづらい、仕事がしづらい環境があるんじゃないか。あるいは今、特にパワハラとかっていうふうなこともあるというふうなことを申し上げました。

つまり、市長として、こういうふうな状況をどういうふうに捉えておられるかっていうことですね、ぜひ、御見解をお聞きしたいというふうに思います。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　安冨委員の御質問でございますけれども、退職――自己退職をしていく若年職員といいますか、若手の職員が多くいるというような御質問ですが、確かに、若手の職員で美祢市役所を離職されていくという方がおられます。

そういった方が、どういったことかと言いますと、やはり他の自治体を受け直して、他の自治体に異動するということや、また、自分のスキルを上げていきたいということで転職をされる方、今の時代にとっては、転職ということが、それだけハードルが高くなく低いというようなこともございますので、一概には安冨委員言われたようなパワハラだとか、セクハラだとかというような事案ではないというふうに思っておりますけれども。

確かに今、社会全体で働き方の改革をしていこうということで、残業を減らしたり、また休日出勤を減らしたり、そして育児休暇を男性でも取得しやすいような環境づくり、そして、また職場内の環境を、どう上司がつくっていくかということも必要なことだろうというふうに思っております。

今、職員だけではなくて、消防の職員も数名、自己都合で辞めておりますけれども、消防に至っては、これ私の考えでございますけれども、一旦気持ちが切れると、危険な現場、また災害等に出向く機会がやはり多い職業柄でございますので、なかなか一旦気持ちが切れた状態で、そういった現場に向かうというのは危険なことがつきまとうということでございますので、そこを無理に止めるというのはなかなか難しいのではなかろうかなというふうに思っておりますし、そういった意味では、しっかり面接をしながら、当然、慰留はしますけれども、最後は本人の考え、そして周りの親御さん、保護者、御両親とも相談しながら、こういった事案については

対応をしているというところでございます。

今、私もこの市役所に入って実務をさせていただいてから３年、丸３年たつわけでございますけれども、確かに精神的にまいっている職員を多く見ます。そういった状況を、人事異動、それから職場の環境を変えるための組織編成をしながら、改善をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　安冨委員。

○委員（安冨法明君）　今、お聞きした限りではよくわからないんですが、リーダー――トップなんですが、そういう今のことを把握されてたかどうかという辺なんですよね。

当然、予算書で上がってくれば、わからんこともないっていうふうには思うんですが、市長として、そういうふうな今、若年のっていいますか、新卒者。特に今、定着率が悪いよっていうふうな社会的な現象になってるって言えば、それまでかもしれませんけども、私は、数年――入庁されて数年たてば、教育をして仕事にも慣れてくる。こういう方が辞められるっていうのは、それは、いろいろ市長が言われるように、それは自己都合ですからあるにしても、美祢市にとっては損失ですよね、これは。それも６人とかそういうふうな数になってくると。

そういう視点で見たときに、市長として、こういうふうな退職者が出てくるっていうふうなことは、ある程度予測をしながら、そういうふうな指導していきますよっていうことなんですが、状況をつくっておられるかどうかっていうことをお聞きしている。配慮が足らないのじゃないかっていうふうな感じの――要するに、現場に任せてるよっていうふうな感じに、ひょっとしてなってるんじゃないですかっていうふうな感じのことを聞いております。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　安冨委員の御質問でございますけれども、確かに日々の、当然仕事の悩み、そして職場の悩みというのはあろうかというふうに思っております。

私が就任してから、新入職員に対して、４月に入って来るわけでございますけれども、６月の定例議会が終わってから、新入職員を集めて懇談をする機会を持つようにして、いろいろな意味での五月病というような話もありますけれども、そういった意味では、６月議会終わってから、毎年新入職員の懇談を今行って、いろいろ

な新任職員の話を聞いているというような状況もつくってきております。

また、それ以外に中堅職員であったり、幹部職員であったり、いろいろな方との懇親を深めていかなければいけないというふうに思っておりますし、職場で悩みがあって、なかなか上司にもその悩みが言えないというような状況であったのかもわかりませんけれども、そういった状況をなくすような、これから努力もしていかなければいけないというふうに思っております。

安冨委員言われたように、当然、入職してから何年かたって、教育も受けて、さあこれから戦力になるというようなときに、職員の方が自己都合で辞められていくというのは、美祢市にとっては、その期間にかかった金額ではないですけれども、時間や労力を考えたら、確かにマイナスになるというふうに私も思っております。そういったことのないように、やはり定着率を上げていく職場環境づくり、そして魅力ある職場にしていくよう、これからも努力していきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　安冨委員。

○委員（安冨法明君）　これは申し上げたんですが、市役所って美祢市民にとって、市民の福祉のとりでなんです、とりで。要するに、ここがしっかりしてないと、基本的には市民生活は安定しないし、守れない。

そういうことを前提に、やはり一般の方と比べて、どうのこうのっていうのは適切じゃないのかもしれませんけれども、高い志を持って頑張っていただけるような、上司に当たる方、市長も含めて、やはりそういうふうな配慮を常にしておかれないと、今後も自己都合があって辞めたら、新入社員か中途採用で採用すりゃええわねってこんな話じゃ、採用しても、すぐはなかなか仕事はできるわけじゃありませんから。

そういうことを十分配慮いただいて、勤めやすい職場っていうと語弊があるのかもしれませんけども、明るいっていうかね、職場環境をつくっていただくようにお願いをしておきます。終わります。

○委員長（猶野智和君）　ほかにございますか。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君）　概要書の５９ページ、予算概要書の５９ページを見ていただければと思うんですが、消防庁舎の消防防災センター整備事業３億６，８２０万円、

このことについてお尋ねをしたいと思います。

昨日も消防長、あるいは教育長とも議論をいたしました。

もとより建てかえを反対するものではありません。ただ、建設の場所について若干問題があるということで、昨日も議論を続けました。

１２月議会も同じようなことを申し上げましたけど、　まず市長にお尋ねなんですが、旧大嶺高の跡地と決められたのはいつの時点なのか、どういう説明を受けて、御判断されたのか。

それからそのときに、大嶺高跡地と決められたとき、全体的な美祢市の、全体的なまちづくりをどのようにお考えになって意思決定されたのか、お伺いをしたいと思います。いわゆる説明と根拠ということでございます。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　竹岡委員の御質問にお答えをしたいというふうに思っております。

美祢市消防庁舎の消防防災センター整備事業の経過ということで、昨日、消防長のほうから説明をさせていただいたというふうに思いますけれども、平成２９年の５月に、防災センターの整備計画についての協議をさせていただいております。

その中で、５月の時点では、市内の数箇所の候補地を挙げて協議をさせていただいて、この候補地でいこうというところにまでは至っておりませんけれども、そこから基本構想の策定に入りまして、その時点で、移転候補地を旧大嶺高校の敷地が一番適しているんじゃないかということで決定をさせていただいたところでございます。

この根拠ということでございますけれども、やはり敷地の広さ、そして現在でも緊急防災のドクターヘリの着陸場所にもなっておりますし、高台にあるというところで、場所を選定をさせていただいたというところでございます。

また大嶺高等学校も、閉校してから空き校舎で、利用が現在されておりません。そういった校舎を除却をしていかなければいけない。また、どういうふうにその費用を出していくかというところも、検討材料の一つになったところでございます。そういった意味からも、大嶺高校跡地が適任地であるというふうに判断をしたところでございます。

また移転に伴って、中心市街地の今後のまちづくり、どういうふうにしていくの

かというのもあわせて、今年度から来年度にかけて、まちづくりの計画を今、策定をしているところでございます。

その計画にのっとって、今後、まちづくりに有効な商業地や、また美祢市が保有をしている市有地等の活用方法について、今後お示しをしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君）　消防署サイドから見て、広さや位置について適していると、こういう御判断だというふうに受けとめて結構ですよね。

それでは、ちょっとさらにお聞きしたいんですが、きのうも教育上の問題ということで随分議論したわけであります。

まず市長は、今回は教育――今までは、教育充実都市を目指すということだったんですが、今度は教育環境ということでやられたわけでありますよね。

で、大嶺中に隣接する場所、広さや、そこならスムーズにつくれるということからすれば、消防長サイドから考えれば、私もなるほどなと思うわけでありますが。

ですが、大嶺中の学校教育の環境からすると、私は極めて悪くなると、こういうふうに思ってるんですよね。

きのうも話しましたが、沖縄で保育園のところにヘリの部品が落ちたというような事故もありました。まさに危険が――空を飛ぶものは、私は宇宙に飛散しないと思います。必ず下に落ちていく。

そうすると、私がきのうも消防長に言ったのは、１５回ぐらい、ドクターヘリが上がったり降りたりするだろうと。ところが防災になりますと、そうはいきません。訓練もあるであろうし、１５回でとどまるとは思ってはおりませんが、私は１５回すらゼロにしたほうがいいんじゃないかと。いわゆる、ほかのところへかわす。ドクターヘリはドクターヘリとしてのすばらしい使命を持ってるわけですから、それを阻害するわけではありません。

そうした中で、先月ですか、三島沖に自衛隊の戦闘機が落ちたのは。必ず、上に飛ぶものは下に落ちるんですよ。そうした危険な状態をつくり出していくということについては、御配慮がなかったのかなという気がいたします。

将来ですね、きのうも伊佐小、伊佐中の話を申し上げました。伊佐小の保護者の

皆さんが伊佐中にはやらない。大嶺か市外にやると、こうおっしゃってるんです。なぜかと言ったら、人数も少ないし、部活もできなくなってくる。そうしたところにはやりたくないと、こういうお考えなんですね。わかります、それも。

私ごとですが、私の孫が、かつて伊佐小学校におりました。そうですね、六十数名。ところが、平川小学校に行ってみますと、１学年が１６０名ぐらいおるんですね。そうした大規模がいいっていうわけじゃないんですよ。しかしながら、ある程度の規模の学校を維持しなくちゃいけない。そうしたところに保護者は行かせるわけですから。

そうしますと、果たして大嶺中に保護者は子どもを学校に行かせるでしょうか。そんな危険なところに。だったらもっといいところの環境に子どもをやっていかなくちゃいけない。これは、市長のせっかくの教育環境充実の趣旨とは反してくるんじゃないかなと私はそういう気がいたします。

先ほど申し上げましたように、保護者が学校を選ぶときの基準、いろいろあると思います。思いますが、そうした危険な状態を、果たして保護者の方は見逃すかどうか、これは私は大いに疑問に思っておるわけでありますが、その辺について、市長はどういうお考えなのかお伺いしたいと思います。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　竹岡委員の御質問にお答えをしたいと思いますが、今ドクターヘリの運用が１５回、現在、大嶺中学校に離発着をしているというところでございます。

また、市内各地に数十カ所以上あると思いますけれども、ドクターヘリの離発着場所がございます。その中には、多くは学校のグラウンドであったり、伊佐であれば球場の近くのグラウンドであったり、そこには、保育園や市民が集う公園があったり、いろいろな状況がございます。

そういった中で、一概にどこが一番安全で、ヘリポートをどこにつくったらいいのかという状況じゃないというふうに、今思っておりますけれども、このドクターヘリが、現在の大嶺高校に着陸して運用してるということは、年数はちょっと私も今はっきりとはお答えできませんけれども、数年来、ここで運用をさせていただいておるというところで、中学校に対しての教育環境については、配慮をしながら行っているということの報告もいただいております。

例えば、試験があったり、行事があったり、そういったときには、そこの場所を避けて、違う場所でドクターヘリの運用をしているというような状況もございますので、当然、教育環境に配慮しながら、この運用は今後も、新しく消防庁舎が移転してもしていくべきでありますし、そうしないといけないというふうに私も思っておりますので、そこの配慮につきましては、十分配慮させていただきたいというふうに思っております。

また教育の問題で、竹岡委員が言われるのが、私も当初、市長選挙に出たときに、一番思っていた事柄で、訴えてきたことです。

そういった関係で、この３月には、私の母校である豊田前中学校も閉校をするわけでございますけれども、ここの関係も、美祢社会復帰促進センターができたので、子どもが増えるであろうというような状況でおったんですけれども、今、竹岡委員が言われるように、小さい学校には、なかなかそうした親御さんが、子どもを行かせたくないというか、ほかの学校に行かせたいというような状況で、転勤や、子どもたちが地域外入学するような形が多く目立って、豊田前中学校の生徒が減ってきたというような状況がございます。

そういった状況を、やはり回避するためにも、特色のある教育環境をつくっていかなければいけないというように、今思っております。それを今、実践をするように努力をしていきたいというふうに思っております。

また、その辺につきましては、また今後、肉づけの予算のときにお示しできるかというふうに思いますけれども、また議論をしていただければというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君）　竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君）　前段のほうをお聞きしてますと、どこも同じような状況じゃないかというように聞こえるんですよね、市長。

言われるとおり、伊佐も公園の野球場の広場、確かに中央幼稚園があります。だから、どこも同じような危険度があるんじゃないかっていうことじゃなくして、それをどう解決していくかっていう、新たに物事を考えていく必要があるんじゃないかと、私は思っているんですよ。言いたくなかったけど、おっしゃったから申し上げますけど。

もう１回、その辺の見直しもすべきだと、安心・安全に暮らせるためには、ドクターヘリは絶対に必要なんです。だからといって、幼稚園や学校があるところに無理にせんでも、ほかに方法はあるんじゃないですかって言いたいんですね。

ましてや、きのうも将来の統合、今おっしゃったように、豊田前も廃校になるでしょう。私は、美祢地域は、恐らくこの大嶺に小中一つになる時代が来るだろうと思っているんです。そうしたときに、どこにそういうものをきちんと置いて、子どもたちに広く――きのうも夢みたいな話って教育長の答弁がありました。

私たち、１２月に、ばかにされたのかどうかわかりませんが、それをもって議論したんですよ。そんなばかみたいな話を聞きながら議論したんですが。

確かに、きのうも大嶺中の敷地に小学校を持ってきたらという、素案という、素案ですよ。参考資料じゃないですよ。素案という、執行部で、もうぼちぼち段取りを始めてる図面が、僕たち知らないことまで出てきた。

それを市長、いいですか。３階建てりゃ４階にする。あるいは５階にすれば狭い敷地でも建てることはできます。しかしながら、教育は校舎の中だけじゃないと私は思います。広い運動場や、多目的の――そうした部活ができる場がいるわけですよ。　そこになぜ、消防庁舎を持っていこうとお考えになったのか。

先ほどは、広さと、あそこが適地だとおっしゃった。だから持っていったとおっしゃったんですよ。教育のことは、教育の「教」の字も出なかったんです、最初の答弁では。それに非常に残念に思ってるわけですよ。

市長、将来やっぱりこの美祢が統合したときに、確かに、私はあそこに小中を持っていくべきだという、そのほうがいいと考えております。

きのうも申し上げました、青果市場が先月なくなっています。やめておりますね。農協さんがもうやれないということで、やめられました。そうしますと、郵便局が残っています。それからＮＴＴの建物。消防署もなくなります。あと何軒か、１軒か２軒残りますが、こうしたまちを、市長はおつくりになろうとして決められたんですか。その辺をもう一回お伺いしたいと思います。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　竹岡委員の御質問にお答えをします。

何点かございましたけれども、まず小中一貫校の件でございますけれども、来年度に教育振興計画をつくる予定にしております。

その中で、今言われる大嶺小学校の移転について、また新築についてどういうふうにしていくかという議論をさせていただきたいというふうに思っております。

また、まちづくりでございますけれども、先ほども申し上げましたけれども、消防庁舎移転後のまちづくりについて、現在、計画を作成をしているところでございます。この計画を策定をして、議会のほうにお示しをして、また議論をいただきたいというふうに思っております。

その件につきましては、来年度中には計画ができる予定になっておりますので、また議論のほどをよろしくお願いしたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君）　議論がかみ合いませんね。来年度からどうぞやってください。

死んだ子の入学式前に――言い方悪いが、もし亡くなられた方がおられて、その方が小学校を卒業する話を今からやるというのと同じなんですよ。場所はもうないんですよ。

ですから、最後に申し上げたいと思いますが、きのうも、大阪生まれの丹下健三さんの話を申し上げました。この方が、イタリアのナポリ市で庁舎を建てるときに、どういう理念でやられたかっていうと、四つのキーワードがあったんです。

その方は、一つは復活、一つは民意、三つ目が活性化、四つ目が先見性。この四つをキーワードに、庁舎を建てるだけじゃなくて、これを大事にしようということで、１番目の復活っていうのは町の復活だったんですね。町をどのように復活させるのか。これを大きなキーワードにされたんです。

それから民意、皆さんの意見を集約して、一部の人を聞くんじゃなくて、皆の議論、我々議員も市民の皆さんから負託を受けてここへ来てるわけですね。そして、二元代表制の中で議論をやってるわけです。けど、さっきからいくら言っても、全く聞く耳を持たない。１２月も同じだったんです。したがって結局、議会が悪いということになっちゃったんですが。じゃあ議会は、ものを言うなっていうんかもしれませんが、それが大事なんです。

その次が、活性化なんです。特にさくら公園のところ、この河川にしても、これが大きく、やっぱりイベントに役立ったと、つくったことが。同じなんですね。やはり活性化にどういう貢献ができるのか。

それから、先見性。残念ながら少子高齢化はものすごい急速に進んでおります。統計から見ると２０４０年、美祢市の人口は、１万８，０００人しかならないと書いてありますよね。９０歳以上は１，４００人であるといつも言ってます。そうした時代が来る。子どもは、もうものすごく少なくなってくる。そのときに、統合は必ず私は起きると思いますよ。

そうした四つのキーワードでやられた丹下さんが、結局、東京都庁もやられたというのは御存じだろうと思うんですね。

私は、庁舎一つ動かすにも、こうした四つのキーワード、やっぱり考えるべきだと私は思います。

そこで、２番目のことなんですが、どうしても聞いていただけなければ、私も、この年末年始、いろんな方の御意見をお聞きしました。やっぱり市長に民意を伝えるならば署名運動しかないんかねと。

市長、６，０００集めたらいいんですか、７，０００集めたらいいんですか。その辺をお尋ねして終わりたいと思います。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　竹岡委員の御質問にお答えをしたいというふうに思っております。

先ほど竹岡委員が言われましたとおり、二元代表制の一翼を担っていただいております議員さんの御意見に対して、しっかり真摯に受けとめなきゃいけないと、当然のことだろうというふうに思っておりますが、この消防庁舎の案件につきましては、平成２９年から事あるごとに、議会の全員協議会等で御説明を申し上げ御意見をいただきながら……。

○委員長（猶野智和君）　竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君）　議会は、場所について聞かされたのは、以前からではないです。市長と２９年の１月に、消防署とお話をなさって以来、我々が場所を聞いたのは昨年ですよ。１２月前ですよ。

ちょっと委員長お尋ねします。全協でやったことは、我々は同意したことになるんですか。だったら今後、議長は――今いらっしゃらない。議長に申し入れしますよ。もう全協から執行部の説明を受ける必要ありません。我々が正式に議論するのはこの場なんですよ。そのことをもって、アリバイづくりをされる必要はないと私

は思いますよ。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　竹岡委員の御質問にお答えします。

まず、全協では概要説明等させていただいておりますし、またこの委員会、また本会議でも、予算としてお示しをして、御承認をいただいているものだというふうに思っております。

その件につきましては、丁寧に説明をしてきたつもりでございますし、また、その説明において瑕疵があって、今言われるような、市民の大多数の皆さんが反対だということであれば、それは一旦、立ち止まらなければいけないというふうには思いますが、１月、ちょっと私はおりませんでしたけれども、臨時会で債務負担行為の――１２月、債務負担行為の予算の議決もいただいておりますので、ここは、議決をいただいたことを、着実に進めていかなければいけないというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君）　竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君）　いくら話をしても平行線ですので、終わります。

○委員長（猶野智和君）　ほかにございますか。岡山委員。

○委員（岡山　隆君）　それでは総括質疑ということで、何点か質問してまいりたいと思います。

市長が言われております主なる指針、美祢市にあって「住みたくなる、住み続けたいまちの創造」、こういったことを言われております。これは、基本的には、美祢市の財政がきちっと健全化にいってる。それが一番基本的なベースにあって、そういったことが私は言えると思っております。

それで、皆さんも御存じのように、北海道夕張市、十数年前には人口が１１万人あって、そして財政が破綻しまして、再建団体ということで、今、人口も当初の１０分の１になっていますし、また、市民に対する行政サービスというものが、ごみを出すにも、今美祢市は無料ですけど、夕張市にあっては、お金を払わなくちゃならない。また、水道もかなり、全国レベルでも高いお金を支払っていかなくちゃならない。

こういうところで、各家庭にあっても一緒ですけれども、美祢市の自治体にあっ

ても、財政というものが一番基本中の基本であります。そこを、しっかりと議会側も、健全に推移しているかどうか、きちっと厳しく見ていくことが我々の仕事であり、務めであるわけでございます。

それで、美祢市の財政状況、こういったところを見る指数としては、経常収支比率というものがありますし、またこの実質公債費比率、そして将来負担比率というものが、美祢市の財政を見るに当たって、非常に重要な指数となっております。

そういったところで、３０年度においては、減債基金を１０億７，０００万円入れて、健全化したということは、私は必要なことであり、もっと早い時点で、減債基金というものを押し当てていったほうがいいと思うぐらいであったわけでございます。

それで美祢市の財政、一番基本中の基本となる減債基金を入れたということでの経常収支比率と実質公債費比率負担、将来負担比率というものがどう推移していくか、まずその辺のところを説明していただきたいと思います。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　岡山委員の御質問にお答えをいたしますが、１点、まず先に、美祢市のごみは無料ではなくて、有料で処理をさせていただいているということ、これはお間違いないようにしていただきたいというふうに思います。

その後の収支比率等の推移については、財政課長のほうに答弁をさせます。

○委員長（猶野智和君）　竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君）　それでは、ただいまの岡山委員の御質問にお答えしたいと思っております。

まず、一括償還――減債基金を１０億７，０００万円入れまして、一括償還を入れたことによる財政状況についてお答えしたいと思いますが、平成３０年度におきまして、減債基金を入れまして、三セク債でありますとか退職手当債、これについて一括償還をいたしました。この二つを一括償還いたしましたのは、比較的利率が高く、あと交付税算入がないものについてでございまして、いわゆる有利ではない起債について、一括償還を行ったものでございます。

そのことによりまして、２９年度の公債費が２０億８，０００万円程度でございましたが、３１年度予算では、それは１７億２，０００万円となっておりまして、公債費負担については３億６，０００万円程度減少しております。

それに伴いまして、実質公債費比率につきましても、平成３０年度決算では下がるものと見込んでおりまして、１３％台か、それを切るぐらいの数字になるんではないかと考えております。

今後も、投資と負債のバランスを考えまして、公債費をコントロールして、健全な財政運営に努めたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君）　岡山委員。

○委員（岡山　隆君）　今、財政課長のほうから説明がありましたけれども、ざっくりの説明でありました。必要な部分は、ちゃんと答弁されていたとは思っております。

最初に、市長が言われたごみの問題については、それは埋め立てに持って行く、そういったごみについては１００キロ１００円ですか、そういったところもの、正確にちょっと覚えてないですけど、そういったところは有料と理解しております。それで、そのごみを処理をするに当たって、カルストの処理場で処分をするということで、いろいろ衛生費がかかっているということは理解しております。

そういったことはそれとして、袋代は当然、自分が支払いしておりますけれども、夕張市はそれよりもさらに、そういった次元ではないぐらいの状況であるということなんですよね。

そういったことで、そこのところは理解しておりますから、自分のところのごみを出すんだったら、ごみの袋代は、缶の袋、そして一般ごみの袋、そういったところ、全部ちゃんと出しております。そういったところまで無料という――してもらうことは、経常収支比率などがよくなれば、そういったところも行政サービスで無料にはなっていくと思いますが、しかし、まだまだ美祢市はそこまでいってないわけですよね。

それで、美祢市の経常収支比率、基本的には市の職員の給与、そして公債費、さらには扶助費、こういったところを一般財源で、基本的には割った数字とは思っておりますけれども、美祢市にあっては、私は１００％近いもの、基本的には、８５％以上になると財政が硬直化しているということも言われてますけれども、美祢市は、それ以上に高いということで見ていいんでしょうか。この点をお尋ねします。

○委員長（猶野智和君）　竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君）　ただいまの岡山委員の御質問にお答えしたいと思います。

経常収支比率が本市が高いかという御質問だと思いますけども、現状約９０、平成２９年度決算で９６％程度だったと思いますけども、他市と比較いたしましても特別高い数字ではございませんが、委員おっしゃったとおり８０％以上超えますと、高い部類の状況ということで、硬直化が進んでるということにはなっておりますが、現状では、近年では上昇したり、ちょっと下がったりという状況でありますので、今後も最低、現状を維持するぐらいの比率で財政運営を行ってまいりたいと考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　岡山委員。

○委員（岡山　隆君）　他市も、経常収支比率は美祢市と同程度のところが、山口県内にあってはあるかなということは理解しております。

それで、実質公債費比率、３０年は１４．３ぐらいやったかなと、ちょっと今はっきり正確な数字を覚えてないんですけど、今回は実際、減債基金を入れたということで１３％切るんじゃないかということで、その減債基金が利の高い、そういったところから借り入れたもの、交付税措置がないようなところのものを早く返したということで、実質公債費比率、将来負担比率というものが１３％切るんじゃないかと。これは、私は是々非々で、健全化のほうに少し向いていったと思いますけれども、この辺についてはどのような御見解でしょうか。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　岡山委員の言われるように、健全化に向けて、今進んでいるというような状況でございますが、岡山委員が日ごろ言われてますように、大型投資がこれから続きますので、これについて、しっかり必要最小限にとどめないといけないというふうには思っております。これも、財政運営をしっかり見ながら進めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　岡山委員。

○委員（岡山　隆君）　今言われたとおり、心配なのは、これから大型投資がめじろ押しであるわけでございます。そうなると、起債を起こして、さまざまな投資的経

費というものがどんどん上がってくるということでもあります。

消防庁舎もしかり、本庁舎もしかり、祖父ヶ瀬の軟水化事業についてもしかり、し尿センターもしかり、学校給食センターもしかり、これだけめじろ押しにあるということを、やっぱり私は、集中と選択をしながら、優先順位できちっと対処していかなければ、もとのもくあみで、実質公債費比率が、また十四、五となっていったら非常によろしくないことで、市民の皆さんへの行政サービスというものが滞ってしまってはならない、私はそういったところを非常に心配しております。

そういったところを、今後とも議会側としてはしっかりとチェックをしてまいりますし、行政のほうとしても、そのようにならないような賢明、健全な対応を私はしていただきたいと思っております。

それで、住みたい、住みたくなる、こういったまちづくりの創造ということで、やっぱり美祢市の人口増を少しでも維持していく今の状態、そして市税が増えていく。こういったところのものというのは、もはや教育のさまざまな施策も大事ですけれども、やっぱり企業誘致というものを私は推し進めて、１００人ぐらいの雇用ができる企業というものが来ていただくということが一番重要でもあります。

小さいところでは、今後さまざまな手は打たれておりますけれども、空き家の利活用など、さまざまな施策がありますけれども、どうか、いかにこの企業誘致を、１００人程度のものをどう２００人程度のものに迎えるか。ここは一番執行部、行政側が一番知恵を出していかなくちゃならない。

こういったところで、今回の税収が少し増ふえると言っても、それは今回、私は申し上げたけれども、女性の雇用、そして高齢者の雇用が増えたということが大きな要因であるということでありますので、今後企業誘致、この３年間見てもなかなか難しいとわかりますけれども、進んでいない。そこのところ、もっと今後、どう戦略的に推し進めていくのか、この辺が今後、美祢市の元気になるかどうか、そういったところにかかっている点も大きいと思っておりますので、その辺についての戦略的なものというのは、今後、どう推し進められるかお尋ねしたいと思います。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　岡山委員の御質問ですが、企業誘致をどのように戦略的に進めるのかという御質問だろうというふうに思いますけれども、現在、昨年の４月から、美祢市から女性を１名、県の東京本部に出向をさせて、企業誘致担当として、

今、活躍をしておりますけれども、その女性を投与して、企業誘致に励んでおるところでございますが、いろいろな今企業とコネクションを持っております。

また、美祢社会復帰促進センターという、地方創生の美祢市にとっては目玉の事業があるわけですけれども、ここと絡めて、今いろいろな施策を打っておるところでございます。もう少しというところもございますし、まだまだというところもございますけれども、いろいろな今展開が、花開こうかなというようなところでございます。

また、十文字原の原野が６１０ヘクほど美祢市にございます。そこについては、そのちょうど中心あたりに農水省の土地がございまして、この土地を今、美祢市のほうにいただけないかという交渉を農水省のほうにしております。これが整った時点で、今、企業さんともお話をさせていただいております。この件が整った時点で、進出していただけるかどうかの判断をしようというところまで来ておりますので、そこはまた決まり次第、御報告をさせていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君）　岡山委員。

○委員（岡山　隆君）　それでは、最後ということで、農水省とのさまざまな対応をしているということでありまして、今後とも、そういったところはしっかりと進めていっていただきたいと思います。

いずれにしても、やっぱり本当に、企業の１００名切る規模のものが来ると言えば、相当の人脈と美祢市の信頼というものがないとなかなか来ないし、また土地の固定資産税を無料にするとか、いろんなさまざまな施策で呼び込むことが必要と思っております。

いずれにしても、これから、もし市長が企業誘致で１００人、家族合わせて４００人ぐらいの方が来れば一気に評価が上がりますよ。だから、そういったところをしっかり進めていただきたいことをお願い申し上げまして、私の質問を終わります。

○委員長（猶野智和君）　ほかにございますか。ここで一旦休憩入れまして、１１時５分まで休憩いたします。

午前１０時５２分休憩

午前１１時０５分再開

○委員長（猶野智和君）　休憩前に続き、会議を開きます。岩本委員。

○委員（岩本明央君）　私はこの予算書の概要というところを中心に、質問なり意見を述べさせていただきます。

先ほどの安冨委員からの御質問と重複するかもしれませんが、お許しいただきますようにお願いいたします。

私は、近年ずっと、５年の山口県内の１３市の予算書、それから山口県の予算書をずっと新聞の切り抜きをいたしまして、５年分はずっと保管をして、参考にしておるわけでございますが、これ言うのも――あとからちょっと質問をさせていただきます。

先ほどから市長は、これから大きな事業が続くというようなこともおっしゃっておられます。私もそういう点、一部懸念はしておりますが、前から申し上げておりますように、大きな事業をする場合には、やはり身軽な体制で、これから進めていく必要があるんではなかろうか、このように考えております。特にお金がたくさん要りますので、市の借金、市債等をできるだけ減らして、これからの事業に取り組んでいただきたいなというふうに思っておるわけです。

お手元の資料の概要書の４ページ、この上の丸い円グラフがありますが、この中の市債、それから繰入金というのがあります。それから、８ページの歳出のところで公債費というのがあります。

公債費は、一般財源の中の借金を返していくというのがあると思いますが。それで公債費が１１．５％、それから市債――借金のほうですが、これが６．２％。これ、プライマリーバランスですと１１．５から６．２を引きますと５．３％になります。これが黒であれば、借金がだんだんだんだん減ってくるということで、５．３％というのは、１４９億６，０００万――約１５０億のうちの約８億円弱が借金が減ってくると、３１年度中に減ってくるというふうに私は考えております。

実は、３１年度の県内の１３市の新聞の切り抜きなんですが、この１３市のうち、プライマリーバランスがプラスの市が七つ、それからマイナスの市が六つということで、特に美祢市は５．３で県内で一番プラスが大きいです。言うちゃ悪いですが、ほかにもいろいろありますけど、お隣のある市はマイナス６．２になっております。そういうことで、マイナスであれば借金が増えるというふうに私は考えております。

ただ、残念なのは、あとから内容をお話しますけど、繰入金というのがちょっと歳入のほうにありますが、これは我々一般庶民が考えるに、定期預金を崩して、来年３月ごろには、ちょっとえらいから５億９，３９３万９，０００円ぐらいを生活費に入れんにゃあしょうがないかのうというのがあるわけです。

実は７ページを見ていただきますと、地方交付税等の推移というのがあります。これは、平成２２年をピークにずっと減る傾向がありまして、３１年度まで大分１０年間でずっと――９年間ですか、減ってきております。

こういうことも考えまして、非常に今後、市の財政も大変になってくると思いますが、先ほど申し上げましたように、市債の残高、市の借金の累積といいますか、その辺のこともどのように市長さんは、今後の大事業に向けてどのようなお考えかを聞かせてください。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　岩本委員の御質問にお答えをしたいというふうに思います。

岩本委員言われるように、地方交付税の算定替えで、年々、地方交付税が減ってきているという現実があります。

その中で、美祢市はあと二、三年は、固定資産税が伸びていくんではなかろうかなという予測もしておるところでございます。

そうした中で、いかに税収を増やしていくか、そしてまた税外収入を増やしていくかというところになってこようかというふうに思っております。

また、税外収入というところでは、ふるさと納税やネーミングライツなどのいろいろな施策を展開して、今後も一定税外収入を確保していきたいというふうに思っておりますし、また、先ほど申されました市債の発行も今回６．２％となっておるのは、これ骨格予算でございますので、肉づけの予算のときに、若干また増える可能性はございますけれども、なるべく抑制をして、公債費というか、今までの借り入れしたのを返していく、そうした準備をしながら、大きな投資がありますので、それに向けて取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君）　岩本委員。

○委員（岩本明央君）　それでは、先ほどの安冨委員からの御質問と重複しますけど、１６ページ、１７ページをちょっとごらんになっていただきたいと思います。

それで、上の表の右から２番目の取崩見込ということで、さっき私が申し上げました繰入金の５億９，３９３万９，０００円、この数字があそこへ入ってくると思います。

それで３１年度、４月から始まる３１年度については７，２００万円ぐらい――７，３００万ぐらい基金に入れるというふうな予定になっております。

それで、１７ページの上の表の一番右の下のほうに１５６億６，４７６万３，０００円、これは、基金の来年の３月末ぐらいには、このぐらいになりますよというような数字であると思います。

そういうふうなことが、この予算概要書の中にも、ちゃんとグラフが載っておりまして、私も「読書百遍意自ら通ず」じゃないですけど、いろいろ見せていただきまして、この表は、懇切丁寧につくってあるなというふうなことで関心をしておるわけでございますが、特に私が前から申し上げておりますように、身の丈に合った生活をする、身の丈に合った行政をしてほしいなというふうなことを私は考えております。

いろんな工事をされても、それからソフト面でもいろいろありましょうけど、やはり十分御意見を聞かれ、また西岡市長の信念もありましょうから、その辺も加味しながら、やっぱり市民のために頑張っていただきたいなというふうに考えております。

今の、特にこの表を見ますと、来年、再来年から、ずっと大きな事業が始まりますので、その辺からもやっぱり市債残高がずっと表に出ておりますけど、１９０億ぐらいまでピークが達するような、この表の中に入っておりますけど、その辺も十分加味していただきたいと思いますが、その辺の市長、お考えよろしくお願いします。

○委員長（猶野智和君）　西岡市長。

○市長（西岡　晃君）　岩本委員の御質問にお答えしたいと思います。

御指摘のとおり身の丈に合った、そして事業が過大にならないように精査をしながら、今後の事業を展開していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君）　岩本委員。

○委員（岩本明央君）　ありがとうございました。期待しておりますのでよろしくお

願いします。

以上で終わります。

○委員長（猶野智和君）　ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君）　それでは、質疑なしと認め、質疑を終わります。

それでは、これより討論を行います。本案に対する御意見はございませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君）　この議案に反対いたします。施策の中に評価できる内容の施策もありますが、消費税増税を前提とした予算になっておりますので反対いたします。行政は市民の砦となるべきだと思います。

○委員長（猶野智和君）　ほかにございませんか。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君）　賛成討論がないんで仕方がありません。私は反対の立場から討論したいと思います。

きのうから、いろいろ議論してまいりました。きょうも総括質疑でやりましたが、結果的には平行線なんですね。したがって、私は私の立場からして反対をさせていただきます。

今回の消防署の庁舎の建てかえ、冒頭にも申し上げましたように、建てかえることについては反対ではありません。

しかしながら、何回も申し上げますが、場所についてはやっぱり見直すべきだと。私は、こんなやり方をしていると、美祢市に大きな不安を感じるわけであります。美祢市の将来を見据えたまちづくりの視点に立って、やはり執行部は判断していただきたい。

いろんなことを議論しようにも、記録を出していただきたいと言ったら出てこない。記録は出ないけど、記憶で答弁されている。そういう状態が続いておりますので、なおさら危惧しておるわけでありますが。

ぜひ、今後とも行政サービスを実施していただくには、それなりの意思決定のプロセスもきちんと残す。そして、どうしてこの全体を動かすのかという大きな視点から立って、各課がそれぞれの意思を通すんじゃなくて、全体的な調整を全庁的に図りながら、どういうまちをつくっていくのかという意思決定の上での意思決定をしていただきたいと、こういうふうに思います。

討論ですから、好きなことを言わせていただきますが、委員の皆さん方にもぜひ、こんな我々、議会があってもいいんじゃろうかと私は思います。

やはり、来年選挙ですよ、皆さん。市長も私どもも選挙があるわけですね、議会も含めて。その場合、我々は我々として、やはり市民の皆さんから負託を受けて出てきてるわけです。是々非々で、何と言われても、市民の皆さんから、一部私なんかは市長をいじめると。僕はいじめた覚えありません。執行部をたたく、そういう議員は排除しなくちゃいけないと、こういうことも言われております。

しかし、議会はそうじゃないでしょう、皆さん。我々はきちんと議論をし、そして、どうあるべきか、将来を見据えた上での、やはり議員活動をすべきだと私は思います。

いらんこと言いましたが、そういう立場から、今回はこの議案に対しては反対の立場をとらせていただきます。

○委員長（猶野智和君）　ほかに御意見ございませんか。山中委員。

○委員（山中佳子君）　それでは賛成意見ということで、今回の新年度予算は骨格予算でもあり、必要最小限のものが含まれていると思います。ぜひ必要な予算でもありますし、賛成したいと思います。

○委員長（猶野智和君）　ほかに。徳並委員。

○委員（徳並伍朗君）　私は反対の立場で話をさせていただきたいと思います。

反対と言いましても、消防署あるいは防災センターと、やはり消防長も言われたように、職員の安心・安全、あるいはいろいろ防災教育、あるいは訓練ということでは、非常に今後、早くてもいいですから、移転といいますか、移築といいますか、それには反対をするものではありませんが、大嶺高の跡地ということについては反対をさせていただきます。

まず、歴史を考えましょう。大嶺高はどのようにして建ったんですか。何年前に建ったんですか。美祢で高校がないと、だから県に言って、美祢市のいい土地を探しましょう。だからぜひとも、高校を美祢市に誘致させていただきたいということで、約６７年位前ですか、美祢市で一番いい所、そして長門市、あるいは山陽町からも通える所、美祢駅があります。そして高台で非常にいい所なんですね。一番環境のいい所に県が高校をつくってくれたと。

しかし、今はどうですか。ヘリコプター、防災ヘリが来るということであります

けれど――４３５号があります。側には大嶺高の跡地、へりに４３５号があります。そして、美祢線があります。そして、近くには保育園もあるわけですね。４３５、今、美祢市民だけではありません。県外からも他市からもこの道を通られます。もちろん美祢線もそうです。非常にそういう交通の――過密とは言いませんけれど、市内においては、そういうところに、今現在、大嶺高が建っておる。その跡地があるわけであります。

そこにヘリコプターも来るわけでありますが、ヘリコプターは車と違って、ぱっと来てぱっと帰るわけではありません。空を何回か回ってそして降りるわけ。

於福の中学校の土地もそうですけれど、本当にたまげます。これも於福中学校のグラウンドに、その場所に降りるわけでありますけど、小学校の校舎の上、中学校の校舎の上を回って降りるわけです。

そして、へりには国道３１６ですか、それと美祢線がへりを通っております。非常に危険な所であります。そういうところに、土地があるからといってつくるのか。

私は、学校というものは先生もおられます。もちろん子どももおります。そして子どもを育てる親もおるわけでありますね。その学校が教育環境、そして教育環境というのは学校内だけじゃないんですよ。周りを全部含んだものが教育環境だろうというふうに思っておるわけであります。

ちょっと話が余談になりますが、今、萩の明倫小校舎、もう今は使われておりませんけれど、校舎は平屋建てって言いますか、各棟があるわけでありますが、その棟には、１年を１年で集めるということではなくて、１年から全部６年まで、そして、その次の棟も１年から６年まで、小学校ですから６歳ぐらい違うわけでありますから、かなりの体力的なもの、あるいはいろいろ違うわけでありますが、先輩が子どもを見るということで、萩の明倫小学校は、そのようになっているわけであります。

教育長が批判と言いますか、言われたんですが、今のことを考えてみてください。教育は昔は６０年の計とか１００年の計にあると言いましたが、もう、教育はそんなもんじゃないんです。５年、１０年で全然違うわけであります。

私の孫も３歳と５歳がおるわけでありますが、残念ながら５歳の子どもは今２人、３歳の子どもは今のところおりません。ですから小学校入ったときには、恐らく１人でありましょう。そのようになってくるわけです。今の時代というのは、もの

すごく変わってくる。

僕が小学校に入学したときには９４人おりました。９４人。今は小学校、全部集めても、その３分の１もおりません。まだまだ少子化はしていくんで、そうなればやはり、教育長が言われた小中一貫といいますか、そういうことも大切であろうと、いずれはそうなるんじゃないかなというふうに思っているわけでありますが。１回つくったら５０年、６０年変わらないんですよ。１回つくったら、５０年も６０年もヘリコプター毎日飛ぶわけです。

どうか、教育環境というものを考えるなら、それぐらい最低で考えてもらわないと、それを考えるなら――考えんのであれば、教育環境をやめたほうがいい。教育悪環境やればいいと、僕は思います。教育というものはそんなもんです。先々、ずっと先々、未来を考えなきゃいけません。

明治時代の戦争で、米百俵というのがあります。隣の藩から米百俵もらったけど、それを戦争に使う鉄砲買うか、あるいは皆で飯を食うか、あるいは教育にその米を使うか。だが昔は、昔はですね、それを教育に使った。それで今もって、米百俵っていう言葉がありますが、やはり、先々のことを考えて、今は苦しいけど、先々の市民のために、自治体の目標は何ですか。何を目標にするんですか。市民の安心・安全でしょう。そのための行政をするんでしょう。それを考えたら、おのずとわかるというふうに思っております。ですから、私は反対いたします。

○委員長（猶野智和君）　ほかにございますか。安冨委員。

○委員（安冨法明君）　反対意見が出ております。私は、本案には賛成をいたします。

この前も同じようなことを申し上げたというふうに思うんですが、前回、債務負担行為で、既に消防庁舎の件に関して賛成をしております。一つの流れの中で、途中で前言を翻すようなこと、私はできません。

ただですね、賛成討論と言いながら反対のようなことを申し上げて、非常にわかりにくい、慎むべきことだというふうには思うんですが、あえて二つほど申し上げたいことがあります。

消防庁舎が必要なことは、もう議論の余地はないと思っておりますが、教育委員会、最近のいろいろ議会の議論の中で、思い起こして考えてみていただきたいというふうに思うんですが、一つの教育委員会としての教育長、それから教育委員会の事務局、そして教育委員おられます。その中で、議論をどういうふうにされたんで

すかっていうふうなことを、私たちは何度もお聞きをしたというふうに思っております。

この件が、議論するに値しなかったのかどうかっていうことはわかりませんけれども、教育行政に対して、教育委員会のきちんとした判断っていうものを、前回も求めたというふうに、教育長にお願いをしてお話をしていただきました。問題ないっていうふうに言われました。だから私は賛成をしました。しかし現実には、反対の意見が多々出るわけであります。

ただ、私の立場からすると、私、秋芳町出身で、大嶺町の地理的なものとか、今までの経緯とかわかりませんから、それはお任せするしかないっていうふうなのが私の判断であります。

もう一つ申し上げなければならないことは、前回も申し上げましたが、まちづくりに対しての総合的な青写真ができてないから、こういうふうなことになると思っております。これはもう、庁内協議をやりましたっていうふうなことにはなっても、記録が出てこないっていうふうなところもあります。

これは市長、よく考えてもらわなければいけません。これからの――先ほども大きな投資的な事業が続きますよという話の中で、一番大切なことだろうというふうに思います。その辺があれば、今回のような議会を二分するような感じの議論にはならないというふうに私は思っております。

しかし、今申し上げましたように、本件に対しては、私は賛成の立場をとります。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　ほかにございますか。岡山委員。

○委員（岡山　隆君）　私は議案に関して、全面的に、もろ手を挙げて賛成というわけではありません。がしかし、もう既に今言われましたように債務負担行為、昨年１２月に賛成しております。それを翻すっていうのも、またちょっとどうかなと思っておりますし、今回、今、安冨委員も指摘されましたけれども、教育とそして消防等の庁舎建設に当たって、協議をされていたと思うんですけれども、さまざまなこういった事案というのを、もっと深掘りをしていくことが余りにもちょっとできていなかったんではないかということ、私は執行部にあっては反省点に立っていただきたい。こういった事案というのは、結構今まで見ていると、同様のことが起こっておりますし、どうか、そういったところをしっかりと修正、直していただきた

いなと思っております。

いずれにしても、消防庁舎、新庁舎、やっぱりこれから防災、減災という政治の主流になろうとしておりますし、市民の皆さんの命を第一に守っていくということは非常に重要で、今の時代に一番合わせた最新鋭の消防庁舎を建設していくことは、私は非常に重要なことと思っております。それに対して、欠落している部分というのは、今申し上げましたようにあります。そういったことで、不本意なところもありますけれども、この件については、賛成せざるを得ないなというのが実感であります。

もう既に、伊佐のサブグラウンドにおいては、ドクターヘリが来ておりますし、すぐへりには幼稚園もありますし、今までかなりのドクターヘリが動いて、多くの命を、本来なら失っていたであろう命というものが救われてきたということを、私は決して見逃してはならないと思っております。

そういった面においては、今後、ドクターヘリの着陸場所などは、さらに深掘りして検討していただいて、地域住民の、特に大嶺町における吉則下、また上など、そういったエリアの方に、しっかりと説明責任を果たしていっていただきたい、こういったことで、いろいろ問題点ありますけれども、賛成の意見とさせていただきます。

○委員長（猶野智和君）　ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君）　それではこれより、議案第１０号平成３１年度美祢市一般会計予算を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（猶野智和君）　挙手多数であります。よって、議案第１０号は原案のとおり可決されました。

以上をもちまして、本会議で本委員会に付託されました議案２件につきましての審査を終了いたしました。

その他委員の皆様から、何かございましたら御発言をお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君）　ないようでしたら、これにて本委員会を閉会いたします。

御審査、御協力、まことにありがとうございました。お疲れ様でございました。

午前１１時３６分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成３１年３月６日

予算決算委員長